

松本市におけるイベント型モビリティマネジメント の効果に関する研究

平成 27 年 2 月 大橋 健人

要旨

目的

近年、モビリティマネジメント（MM）という過度に自動車に頼る生活から公共交通や徒歩など多様な交通手段を適度に利用する生活への転換を促す施策が実施されている。松本市でも公共交通の利用促進の取り組みとして様々な MM を展開しており、その一環として平成 24 年度から年 1 回公共交通のイベントを実施している。平成 25 年度に行った調査では、イベント参加者に公共交通の利用を増やそうという意識の変化がみられた。しかしながら、MM の最終的な目的は多様な交通手段を利用する生活への転換を促すことから、本研究では実際に公共交通の利用が増えたかどうかを検証し、イベント型 MM の有効性を明らかにする。

方法

平成 26 年度のイベント参加者に対し、公共交通に対する意識や行動、イベントの評価といった項目についてアンケート調査を実施した。そのアンケート調査の結果を統計解析手法を用いて、MM が人々の意識や行動に与える効果を明らかにする。

結論

平成 26 年度の参加者に対して行ったアンケート調査結果より、過去に実施されたイベントの参加をきっかけに、実際に公共交通の利用が増えたことが明らかとなった。また、イベントに初めて参加した人よりも過去に参加経験のある人に公共交通の利用を増やそうという意識の変化がみられたことに加え、参加回数が多い人ほど利用が増えたことから、参加を重ねることにより、さらなる利用促進の可能性が期待できることがわかった。よって、イベント型 MM は有効であり、また参加してもらうことも重要であることが示された。しかし、本研究で対象とした MM は参加者にしか効果が望めず、効果が限定的にならざるを得ない。今後は効果の範囲を拡大させていくため、さらなる MM の展開の可能性を模索していくことが課題である。

指導教員 高瀬 達夫 准教授